



ふくおか [Good] 農業人100  
 主な農産物 / シクラメン、花苗

# 溝口 泰隆さん (27歳)

(営農地 / 北九州市小倉南区木下)

## プログラマーからの転身

《就農のきっかけ》

### 早くなった就農

大学では科学工学を専門に学び、卒業後プログラマーとして福岡市天神で働いていた溝口さん、祖父の死を契機に退職し、実家の鉢花栽培を始めました。「いつかは農業を継ごう、土地もあるし設備もあるし、でも外でも働きたい」と思っていたそうですが、いざ就農するときの家族の反応は「もうちょっと外で働けば？」だったそうです。花き栽培は、子どもの頃からずっと手伝っていたし、高校の時もシクラメンの葉組み作業（花が鉢の中心に集まるよう、葉を並べ替える作業）をしていましたから、就農することに不安やとまどいはなかったそうです。

《これまでの過程》

### 栽培する品目を模索するための花屋めぐり

溝口さんは、就農後、父の鉢花栽培とは別部門を立ち上げ、花苗栽培へ挑戦しました。1年目は、品目、品種やその売れる時期などの知識がなかったため、何の品目をいつ栽培するかを模索する日が続いたそうです。

「近くの農家さんのところに行って『何するんね?』と聞かれ『決まってない』って答えました。それからですね、本気で花屋めぐりを始めました。どの時期に何を売っているのか、何が売れているのか。今思えばもっと事前に情報を把握していればよかった。」と、始めのうちは目標が漠然としていたそうです。

「自分が花苗部門の生産、販売などすべての計画をしていますので、父とは意見が異なることもあります。けど、自分は絶対自分のものが選ばれるように作っています。新商品を作る時はこんなイメージで作りたいと考えていて、例えば、“カーペットのように”とか“ソフトクリームのように”とか。」と、どう売りたいかという販売戦略をしっかりと持っていることがわかります。

栽培に関しては、「毎年、新しい品目品種の試作を行います。温度管理の困難さや病害虫の発生で失敗することもあります。」と、課題はたくさんあるようです。



プロフィール

- 家族構成 / 祖母、父、母、本人
- 前職 / プログラマー
- 営農年数 / 約4年
- 従業員数 / パート3名
- 耕作(経営)面積 / 23a
- 販路 / 市場、直売所

《これからの展望》

### オリジナル商品を作りたい

始めは漠然としていた目標も“どのようなものを作りたいか”が決まったことによって「毎年売上目標を決めています。」と、定まったようです。

「ハウスに余裕があるので、花苗の生産はもっと拡大していきたいと考えています。誰もが生産している苗でなく、付加価値のあるものを作っていきたいです。そのために出荷時に付けるロゴ入りのラベルを作りました。“これ俺の”が分かるようにしたいじゃないですか。市場に出荷したとき、花屋さんが自分の栽培した商品を手に取りたくるような、驚き(感動)のあるオリジナルの商品を生産していきたいです。」



### Good 成功のためのポイント

何が、いつ売れるのか?それについての情報を収集することにより実際に“売れるものをつくること”です。